



## 「シブヤ未来科@西原小」の学び

副校長 田中 亮太

季節が深まるにつれ、次第に冷え込みも厳しくなってきました。年度末が近づく中、子供たちの学校生活は学年のまとめに入りつつあります。今年度から渋谷区は授業時数特例校の指定を受け、総合的な学習の時間を中心にシブヤ未来科としての学習に取り組み、地域との関わりなどを通じて探究的な学びを深めてきました。西原小での取組の一部を紹介します。

1年生は、オープンスクールの近隣園との交流で来校した園児たちと一緒に遊んだり、学校のことを教えたりと楽しい時間を過ごし、先輩としての顔を見せる子もいました。2年生は、生活科の学習で地域の図書館や駅、郵便局などを訪れ、見学をしたり、そこで働く方々の話を伺ったりしました。どんな人たちが働き、どんな工夫をしているのか学び、自分たちの生活がどのように支えられているかを知る良い機会となりました。3年生は安全マップ作りに挑戦。地域を実際に歩いて、安全な場所や危険な場所を確認し、行政相談員の方々へ自分たちの意見を伝えました。この活動を通じ、地域を知るだけでなく、どうしたらよいかを考える姿勢が育まれました。



2年生 代々木上原駅見学



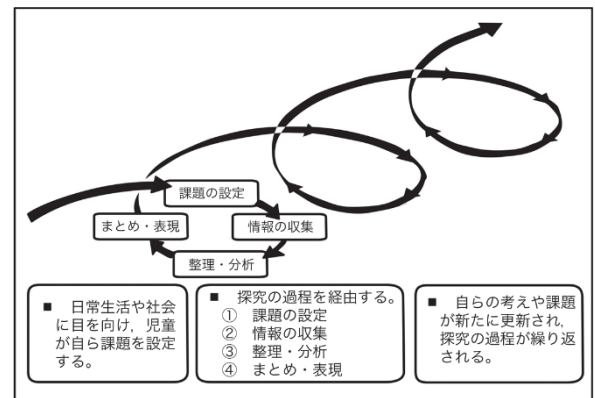
4年生 パラスリート交流

4年生は、パラスポーツの体験や福祉施設の訪問などを通して、多様性や共生の大切さについて考えました。相手の立場に立つことや諦めないことの大切さを学びました。5年生は、JICAとの交流を重ねたり、環境問題を調べたりする中で国際的な視野を広げ、自分たちの未来について考えました。社会問題に対して自分たちからアクションを起こす意識を、子供たちはもち始めています。6年生は、地域につ

いて様々学んできたことを生かし、地域の方々のお話を伺いその思いに触れながら、「自分たちの町をもっとよくしていきたい」という願いのもと、西原の未来のまちづくりについて考えています。学ぶほどに、地域への愛着が次第に深まっています。

もちろん、シブヤ未来科としての学習はこれだけではありませんが、これらは単に「教科書にないことを学ぶ」「体験的に学ぶ」だけではなく、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→課題設定…」という探究的な学びのスパイラルを通じて、自分で考え、協働し、問題を解決する力を養うことをねらいとしています。西原小の子供たちは、教職員の工夫と働きかけに応え、一人一人が主体的に学びを進めています。

探究的な学習における児童の学習の姿



文部科学省 小学校学習指導要領解説  
【総合的な探究の時間編】(平成30年告示)より

### 2月の目標

- 【生活目標】  
寒さに負けず  
元気よく外で遊ぼう
- 【保健目標】  
室内の換気をしよう
- 【給食・食生活】  
食事の環境を見直そう

3月1日(土)に予定している学校公開では、西原小伝統の鼓笛隊移杖式とともに、子供たちのそうした学びの一端をご覧いただきたいと思っております。探究的な学びは次の学年、中学校、そして地域・社会へとつながっていきます。西原小ではこれからも、西原地域とのつながりを大切にしながら、子供たちの成長を支えていきます。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。